

学校評価アンケート集計結果のご報告

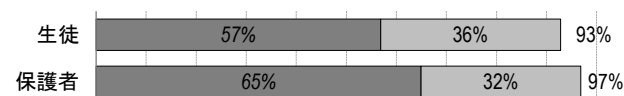
令和7年3月
静岡学園中学校・高等学校

本校は、「時代が求め、地域や国際社会が期待する人材」を育成すべく、「孝友三心」を校是に、自主自律の精神、共生の精神、真理と生命を尊ぶ精神、進取の精神を教育理念に、より良い学校づくりを目指して改革を続けています。教育活動の改善を図り、その環境を整えるために重ねてきた様々な取り組みの成果を確かめ、併せて今後の改善課題の的確な把握を図るべく、本年度も学校評価アンケートを実施いたしました。集計結果に分析を加えて、「生徒のための改革」の進捗と今後の方向性をお伝えする本書面を起こしました。ご高覧を賜りますよう、お願い申し上げます。

校長 鳴嶋 吉彦

生徒、保護者に「本校に入学して／入学させて良かった」と思われることは、生徒を預かる学校が最低限満たすべき要件と考えます。以下の質問への肯定的な回答が占める割合は、生徒が93%（昨年は91%）、保護者が97%（同95%）でした。「どちらかと言えば」との但し書のつかない「そう思う」を増やすべく、教育活動のさらなる改善に取り組んで参ります。

生徒 総合的に考えて、本校に入学して良かったと思う。
保護者 総合的に考えて、本校に子どもを通わせて良かったと思う。



—— グラフの見方（凡例と集計方法について） ——

凡例：■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。棒グラフの右端外側に添えた数値は肯定的な回答が占める割合（肯定率）です。なお、数値（百分率）は各々小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。

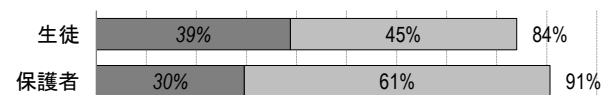
学校への総合的な満足度を最も大きく左右するのは、生徒の場合、「進路実現への十分なサポート」「困りごとへの先生の親身な対応」「周囲の努力からの刺激」「学校行事での成長・絆」であることがデータの解析で改めて確認できました。生徒が互いに刺激し合い、安心・安全な環境の中で自らの殻を破り、成長していける環境の創出・維持にこれまで以上に力を入れて、「啐啄（そったく）宣言」で約束したことを一つひとつ実現していきます。「生徒が向上したいと思ったときを逃さないサポート」が最優先事項です。保護者の皆様の期待もその多くが「将来を拓く学力の獲得」「進路実現へのサポート」などに向けられています。日々の教科学習指導、進路指導に加え、一人ひとりの未来を拓くための特色ある教育活動（SGTや

緑風塾）も内容の充実と整備を進めて参ります。

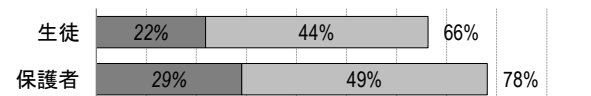
【授業・学習指導】

学校の教育活動の中核である学習について幾つかの観点で、生徒と保護者の双方に評価を求めました。いずれも昨年をわずかながら上回る評価を得ましたが、まだ改善の余地はありそうです。新しい学力観での学ばせ方の実現のため、出題研究・教材研究に加え、校内外の優れた実践の共有を進めて参りましたが、ここで歩みを止めることなくさらに取り組みを進めます。特に、「日々の勉強への取り組み」は十分とは言えない水準です。意欲的に取り組める教材の開発と並行し、学習習慣の形成を図る指導に注力します。

生徒 授業にしっかり取り組めば、進路希望を叶えるだけ力がつく。
保護者 学校の授業を通し、子どもは将来を拓く力を身につけられる。



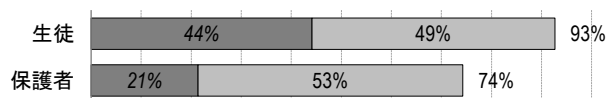
生徒 私は、日々の勉強に見通しを立てしっかりと取り組んでいる。
保護者 子どもは、学習習慣を身につけ、日々勉強に取り組んでいる。



生徒一人ひとりの課題とニーズに応えるサポートは、生徒の「啐」に応じる「啄」そのものです。生徒の評価は概ね良好ですが、保護者の評価では不明や悩みの解消はまだ不十分です。まずは困り事の発生を迅速かつ正確に把握することに注力します。

生徒 学校生活（学業、進路を含む）の悩みに、先生方は親身に応じてくれる。

保護者 勉強のわからないことや進路の悩みは、学校で解決できているようだ。

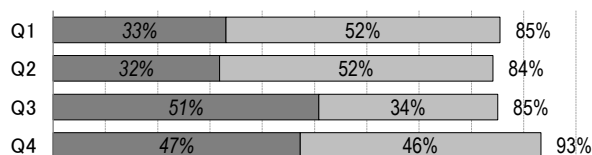


【進路指導、キャリア教育】

本校の進路指導が目指すところは、「多様な体験を通して自らと向き合い、高い志と進路実現の実力を身につけること」です。SGTを始めとする6つの特別プログラムも目指すところは同じです。「夢の発見」「それを実現するのにふさわしい進路の選択」「進路希望の実現」の各フェイズにおける指導法の開発や組織的な指導態勢作りを引き続き進めていきます。

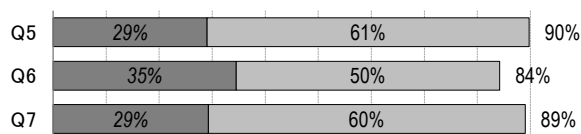
生徒には以下の質問で現状への評価を求めました。各項目とも、回答分布に昨年度までと大きな違いはありません。Q4は肯定率が9割以上であるのに対して他の3項目は8割台半ばに止まります。特にQ3はもう一段引き上げていきたいところです。以上の各フェイズにおける不足をしっかりと捉え、生徒が未来の自分を見つけ、そこに近づこうとするときの努力を支える「啄」の実現に今後も力を入れて参ります。

- Q1 講演、ガイダンス、面談などは、進路選択に参考になる。
 Q2 進路について考えるのに必要な情報は、十分に手に入る。
 Q3 私は、自分の将来に目標や夢を持っている／持てると思う。
 Q4 進路希望の実現に、学校はしっかりサポートしてくれる。



保護者には、以下の質問で評価をいただきました。Q7は昨年と同水準を維持し、Q5とQ6で小幅ながら評価が上昇しました。進路指導の方針や内容は常に更新と改善を図っています。進路通信などで最新の状況をさらに力を入れて伝えていきたいと思います。

- Q5 進路指導の方針はわかりやすく、指導内容にも納得できる。
 Q6 子どもは、自分の将来に目標や夢を持つようになった／なる。
 Q7 子どもの進路希望の実現に、学校はサポートの態勢を整えている。



進路指導の現状に対する教職員の問題意識も昨年のアンケートを機に共有が進みました。改善課題であった組織的な指導体制の整備には以前に増して力

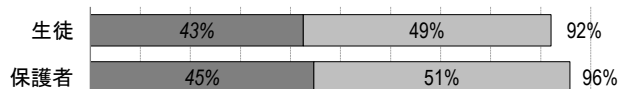
を注いでいます。進路希望の実現を図るフェイズの指導には一定の改善成果が出ていますが、進路希望の発見と具体化のフェイズの指導改善を加速します。

【生徒指導、自律性の涵養】

本校が掲げる教育理念の先頭に置かれているのが「自主、自律の精神」であり、生徒指導の場でも常に最優先に考えています。与えられたルールや規則を守るだけでなく、取るべき行動を生徒自身が考えて、正しい選択をできるよう、今後も指導を継続します。ルール等の順守は概ね良好です。生徒指導方針への納得は以前より得られるようになりました。災害時などの対応は相対的に低く、さらに工夫を重ねます。

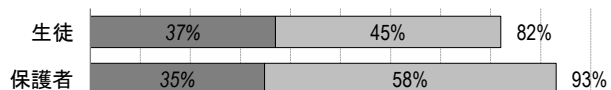
生徒 私は、学校の決まりや集団生活のルールやマナーを自分から進んで守っている。

保護者 子どもは、決まり事や約束、社会のマナーを自ら進んで守っている。



生徒 私は、地震、火災、事故などが起きたとき、落ち着いて適切に行動できると思う。

保護者 地震、火災、事故などが起きたときの学校の対応は明確で安心できる。



生徒 学校生活上の約束事はわかりやすく示されていて、指導には十分納得できる。

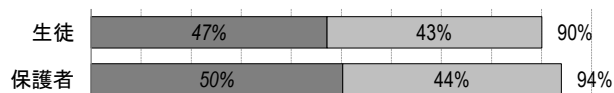
保護者 生徒指導の方針はわかりやすく説明されており、内容も納得がいくものだ。



周囲の生徒の言動からの刺激は、生徒の成長（行動や考え方の変容）を促す大切な要素です。自らを相対化して客観的に振り返るための材料であり、自律性の涵養にも不可欠です。以下の質問に「そう思う」を選んで答えられた生徒はまだ半数以下です。授業や行事、部活動などで「生徒間の相互啓発が働く場」を調べるとともに、刺激を上手に消化するための支援・指導にもこれまで以上の工夫を重ねていきます。

生徒 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢に刺激を受けて、自分も頑張れる。

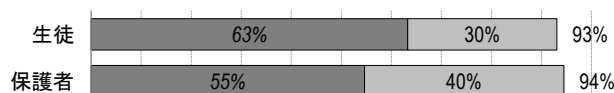
保護者 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢は、子どもにとって良い刺激になっている。



生徒の成長に必要な周囲からのポジティブな刺激を歪めかねない「いじめ」や「人間関係のトラブル」の根絶には学校を挙げて取り組んでいます。以下の質問の肯定率は9割以上を維持しました。質問文の前半の実現に加え、楽しく前向きに取り組める活動の場の創出には、引き続き力を入れたいと思います。

生徒 私は、いじめや人間関係のトラブルなく、楽しく毎日の学校生活を送っている。

保護者 子どもは、いじめや人間関係のトラブルなく、学校生活を楽しんでいる。



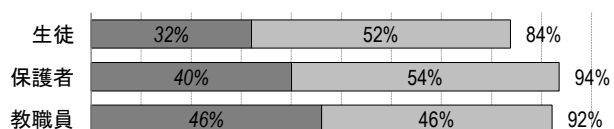
実り多き学校生活を送る土台は、言うまでもなく健康な生活、とりわけ規則正しい睡眠と食事です。「睡眠と食事を規則正しくとり、健康的に毎日を過ごしている」に肯定的に答えた保護者は減っていましたが、今期は昨年の81%から85%に回復しました。

生徒に「自律」を求めている以上、教職員が服装や言動といった「基本」から模範を示す必要があります。生徒の評価はやや改善しましたが、改善の余地がまだ残ります。教職員の間にも一定の問題意識があります。改めてその共有を図り、改善を進めます。

生徒 先生は服装や言動で社会人としての模範を示している。

保護者 教員の服装・動は、生徒に社会人としての模範になっている。

教職員 私は、社会人としてのマナーを意識して職務に当たっている。



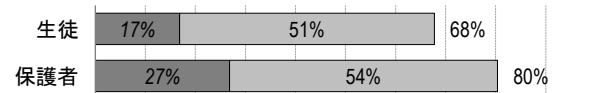
【建学の精神、教育理念への理解】

建学の精神や教育理念の下で、教職員がまとまることは「私学の存在意義」に関わる大切なことですが、学校側の独善にならぬよう、生徒や保護者の理解と共感を得た上で、教育活動を進めることを心掛けています。日々の学校生活の中で、生徒とともに「孝友三心・啐啄宣言」や「教育理念の4つの精神」を考え

る機会を持つようにしていますが、評価結果を見ると、まだ十分とは言えません。改めて、建学の精神や教育理念を、生徒の日常・自分事と結び付けて具体的に示し、個々の指導に込めた意図がどこにあるのか、より深く理解してもらえるように努めていきます。

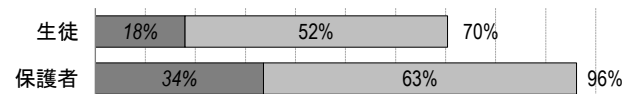
生徒 「孝友三心」「啐啄宣言」を意識して学校生活を送っている。

保護者 「孝友三心」や「啐啄(そったく)宣言」の内容を知っている。



生徒 私は、教育理念の4つの「精神」をきちんと理解している。

保護者 学校は、建学の精神や教育理念に沿った教育を行っている。



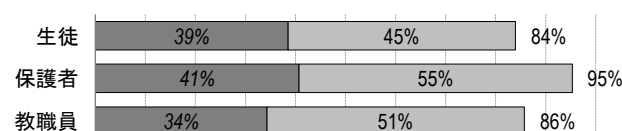
教職員に尋ねた「建学の精神や教育理念の下でのまとめ」「生徒の前で孝友三心に言及する機会」では、これまでのアンケートで問題意識を共有できていたにも拘わらず、未だ不十分とする回答が多く見られます。改善行動の足並みを改めて揃えます。

本校は来年、開校60年を迎えます。先輩たちから引き続き、在校生が積み上げていくものこそが伝統ですが、建学の精神や教育理念という「拠り所」を見失わずに、新たなチャレンジを重ねたいと思います。

生徒 先輩方の活躍や校内の文化に、学校の歴史と伝統を感じる。

保護者 本校には歴史や伝統が備わっている／備わってきた。

教職員 学校には歴史と伝統が備わってきたと感じる。

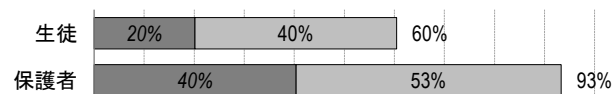


【特別プログラム】

本校では、進路実現を支援すべく、様々な特別プログラム（SGT、日本の伝統文化継承プログラム、ボランティア活動、インターナショナルプログラム、緑風塾、地域共生活動）を整えて、その充実を図ってきました。それぞれに固有の目的がありますが、学びを複合的に体験してもらうことで、多角的な能力・資質が育まれ、社会をより良く生きる力とチャレンジ精神が生徒一人ひとりのものになると考えます。改善の余地はまだ大きく、これからも可能な限りの工夫を重ね、各々の目的の達成を目指して参ります。

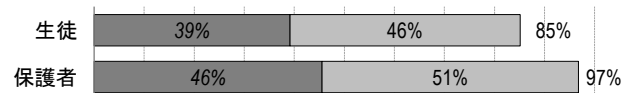
生徒 SGTや緑風塾の活動には、目的意識をもって積極的に取り組んでいる。

保護者 SGTや緑風塾など、本校の特色ある教育には大きな期待を持っている。



生徒 ボランティアや地域共生活動で様々な気づきや学びがある。

保護者 ボランティアや地域共生活動は、社会の一員の自覚を育む。



生徒 伝統文化継承や国際交流には、意欲をもって取り組んだ／取り組みたい。



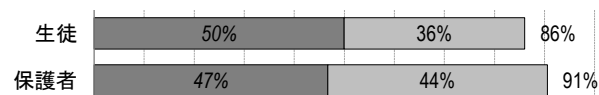
各プログラムでの目標達成へのコミットメントや指導手法の確立を目指す研鑽などは、教員間でいくらか温度差が残っており、改めて目線合わせを行う必要があります。実際の指導を担当する教員だけでなく、全教職員が各々の活動や指導を互いに熟知することでシナジーが働き、費用対効果も高まります。

【部活動、学校行事、生徒会活動】

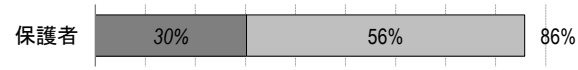
部活動もまた「あきらめることなく自分の可能性を追求する」「自主性と自律心をもって静岡学園の生徒としてふさわしい行動をする」「友情と、先輩後輩の絆を深め、先生方から人間としてのあり方を学ぶ」といった姿勢を獲得するための教育機会であり、その位置付けに今後も何ら変わるところはありません。評価結果に顕著な改善は見られませんでした。より肯定的な評価が得られるよう、活動環境や指導体制を整えて、生徒一人ひとりが「努力と活躍の場」を持てるように取り組みます。学校行事も含め、課外活動の広報にはまだ不足があると認識しています。活動に取り組んだ成果（成長）をより効率的に伝えられるよう、今後も工夫を重ねていきたいと思っています。

生徒 私の所属する部活動は、環境（練習場所、顧問の指導など）が整っている。

保護者 学校は、部活動の練習環境や指導体制を整え、生徒の頑張りを応援している。



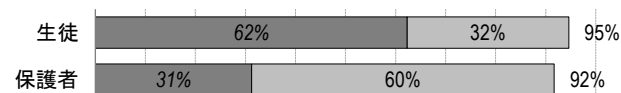
保護者 行事や部活動での生徒の頑張りや活躍は、通信やHPで十分に伝わってくる。



静学祭や体育祭などの学校行事への評価はさらに改善が進みました。自分の成長や周囲との絆の深まりを実感する生徒も増えました。コロナ禍での制約はすでに解消されましたが、中断で失われたものがあるかも知れません。単なる回復だけでなく、新たな価値の再構築を目指して参ります。保護者の回答は「どちらかと言えば」との但し書きがつく肯定が多く、改善すべき点の洗い出しを進めたいと思います。

生徒 静学祭や体育祭では、自分の成長や周囲との絆の深まりを実感できる。

保護者 静学祭や体育祭の内容・運営には、教育的な意図がしっかり感じられる。



課外活動での自主性・主体性の涵養に関する教職員の評価はやや後退です。問題意識の高まりの反動と思われますが、問題点の特定と解消を図ります。

教職員 生徒会活動や部活動での指導を通じて、生徒の自主性・主体性が育まれている。



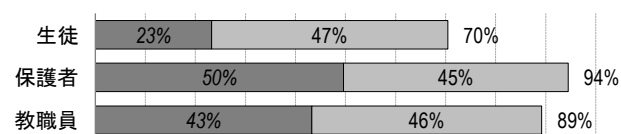
* * * * *

学校が学びのコミュニティとしてまとまるには、母校／職場に対し、一人ひとりが誇りを持てることが肝要です。校歌を歌う場面での生徒の心情はやや振るいませんが、他二者の評価は比較的良好です。

生徒 校歌を歌うとき、静岡学園の生徒であることに誇りを感じる。

保護者 子どもは、静岡学園の生徒であることに誇りを感じている。

教職員 私は、本校で教育活動に当たれることに誇りを感じている。



学校評価アンケートへのご協力に改めて御礼申し上げます。お寄せ寄いただいた回答は学校への要望そのものです。これまでと今回の結果に真摯に向き合い、より良い学校作りに役立てて参る所存です。

保護者 学校や先生方は、生徒・保護者の意見や要望に対し真摯に向きあってくれる。



本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL 054-200-0191 FAX 054-200-0195

教務部研修課長 堀川 雅史